

馬場ひでゆきの活動日誌

No.50

●署名14万筆 必要数上回る

市民団体「柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で決める会」は、1月6・7日の両日で、新潟県内の33市区町村（昨年11月以降に首長選があり、一定期間署名集めができなかった柏崎市など4市村を除く）の選挙管理委員会に署名簿を提出しました。

1月7日、「決める会」は、県庁で記者会見を開き、昨年10月末から2カ月間行ってきた署名活動で14万1092筆（①）が集まったと報告しました。全選管への本提出は、遅れている4市村の署名活動期間終了後の2月10日を予定し、3月中旬に知事に条例案の直接請求をする方針です。

●上越市では14738筆

上越市でも、1月7日、「市民連合・上越」のメンバーが上越市選挙管理委員会に署名簿を渡しました。私も同行しました。上越市内での署名数は、年末

●署名の取組みの成果

法律上必要とされる署名数は、県内の有権者数181万6246人の50分の1の3万6325（②）です。収集された署名は、法定数の約3・9倍（①÷②）となり、直接請求の成立要件を大きく上回ったことになります。厳格な手続きによって収集された署名であることを考えると、大成功だったと思います。

今後は、知事や議員へ働きかけと世論の喚起が重要な取り組みとなります。みなで知恵を絞って頑張らしましょう！

上越市新年祝賀会

1月6日、上越市の新年祝賀会がリージョンプラザで開催されました。昨年は元日に能登半島地震が発生し中止、二年ぶりの開催です。今年は、合併20年の節目の年だそうです。約1960人が出席しました。私は、初めての参加、どこに



記者会見する「柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で決める会」



1月7日、上越市でも、14738筆分の署名簿を提出しました。

●お知らせです ●
本町商店街恒例の「冬の絵看板まつり」が1月25日午前10時から午後4時まで高田まちかど交流館（当事務所隣のビル）で開催されます。
今年は、「するてんまつり」も加わります。商店街界隈の20店のお食事処が、「するてん」を使った料理を提供してくださいます。揚げたての地元のソウルフード「するてん」を食べて寒さを吹っ飛ばしましょう！
企画運営は、高田本町百年商店街実行委員会です。このおまつりは、新潟県の被災商店街再建支援補助金を活用しています。



高田本町するてんまつり

いればいいのかもわからず、人が多くて圧倒されました。

12月議会の報告

12月議会の産業経済委員会では、私がした質疑の概要を報告します。今回は、農林水産関係です。

コメの来期の生産目標

Q 新潟県が、令和7年の主食用米の生産目標を同6年の生産量と比べて1万8900トン多い56万2400トンに引き上げた理由は？

新潟県産の米については、昨年の夏、備蓄需要の高まりなどによって全国的に供給が追いつかず、県内のスーパーでも品薄となったほか、作柄が去年から2年続けて「やや不良」となり主食用米の生産目標が達成できず、食料安全保障の観点からも安定した供給体制を構築することが課題となりました。

生産目標の引き上げの背景には、新潟米に対する需要の変化もあります。

私が昨年の米の供給が追いつかなかったことの要因を質問したところ、県の担当者からは「近年、パックご飯の需要拡大や外国人観光客の回復等により、中食・外食需要が伸びてきていて販売先が変化している」

「県内JA及び農業者からの聞き取りをしたところ、業務用途のボリュウムが上がってきているという状況があった、業務用途が増えることによって、自由に動かせざる在庫がほばないという状況になっていた。」

との答弁がありました。生産目標の引き上げは、コメ農家にとっては嬉しいニュースです。新潟米が観光客や消費者に根強い人気があることもわかりました。

鳥インフルエンザの予防策

Q 鳥インフルエンザの発生防止のための方策はあるか？

昨年は、県内にある養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの発生が二例確認されました。胎内市の養鶏場では約35万羽の大規模な殺処分がなされました。

鳥インフルエンザに感染した鶏は、10日以内に75%以上の確率で死にます。また、ウイルスは周辺に広がりやすい特徴があります。そのため、拡大するリスクを避けるため、疑わしい鶏舎の鶏は、すべて殺処分します。殺処分になると膨大な人件費、

消毒費用が発生します。また、鶏卵の供給が滞り、鶏卵価格も高騰します。

感染防止の方策は、鶏舎にウイルスを持ち運ぶおそれのある外部からの人や車、野鳥、野生動物の侵入を防止することです。しかし、外部の遮断を完璧にしたのに鳥インフルエンザが発生したという事例もあります。

もう一つは大量処分を回避するために個々の鶏舎を「分割管理」して、作業員も作業道具も設備もまったく鶏舎ごとにするものです。

しかし、「分割管理」をして、ものの後の運営コストが従前よりもかかります。しかも、鳥インフルエンザの感染発生や拡大が完全になくならない限りません。だから、県内約100の養鶏業者で分割管理をしているのは僅か2業者6農場です。

県は、「分割管理」を推奨する旨の答弁をしていますが、有効な方策がないというのが実情です。

自分で作ったコメが届きました



昨年、中ノ俣の「棚田学校」に通い、コメ作りを学びました。今回、他の生徒さんと一緒に作ったお米をいただきました。僅か三キロ分ですが、私の労働



の結晶です。とても嬉しいです。今年は今度はもっと頑張ります。

私の推し本その20



茨木のり子著「倚りかからず」（筑摩書房）

詩集の題名にもなった「倚りかからず」の詩。

「もはや できあいの思想には倚りかかたたくない
もはや できあいの宗教には倚りかかりたくない
もはや できあいの学問には倚りかかりたくない
もはや いかなる権威にも倚りかかりたくない
ながく生きて 心底学んだのはそれぐらい
自分の耳目 じぶんの二本足のみで立っていて
なに不都合のことやある

倚りかかるとすれば それは 自分の背もたれだけ」

茨木さんが20歳のときに戦争が終わりました。戦争は終わったが、戦争中は軍国主義、戦後は民主主義、思想や時代の風潮に何も考えずに流されていたことを後悔します。その後、「自分の感受性くらい」を発表、個人の感性こそ生きる軸になるはずだと思ふようになります。そして、1999年10月、茨木さん、73歳の誕生日に発刊されたのが「倚りかからず」。この詩は、「流されまい」との固い決意でその後の人生を生きてきた茨木さんの、体験に裏打ちされた哲学詩なんだろうなと思います。

やっぱり最後の言葉がいい。「倚りかかるとすれば それは 自分の背もたれだけ」。何事も自分の頭と経験とで考えるしかない。



発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイアパレス高田武番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666

メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp